

NPO 活動推進自治体フォーラム島根大会 閉会式

■閉会挨拶（NPO活動推進自治体フォーラム島根大会実行委員会委員長 井上定彦）

私もこれまで、いろいろなフォーラムを拝見してきましたが、このようにクロージングセッションが盛り上がったのは記憶にありません。これほど型破りで、超一流の役者揃いのセッションは、全国どこに行ってもなかなか聞けませんよ。そういう点では、私は何もいう必要がないと思ったのですが、本フォーラムのおおよその流れを紹介しながら、結びの言葉にしたいと思います。

私たち、21世紀に入ってはや10年、地域が抱える課題やニーズが大変難しくなり、複雑化し、多様化しております。そのような中で今、ますますNPOの役割、そしてそれを含めて新しい公共の担い手はどうするのか、という議論がいろいろなところで出てきております。様々な分野での議論が飛び交い始め、何とかしなければならぬ、という気持ちがそれぞれの中にあるように思います。

さらに考えてみますと、NPO法が制定されて10年余が経ちました。そしてこの10年間の積み上げを振り返りながら、次のステップにどのような課題があるかということを考えるという点では、非常に良い大会になったのではないかと思います。ここでは地域の課題を解決するために、多様な主体による協働、その多様な中には小さい個人から生まれる公、それを広がりのある公にしていく、下から積み上げ、そこにある一人一人のニーズからもう一度「公」を構築し直す。従って、「公」というのは官も含み行政も含むが、もっと広い本格的な、本質的な意味での市民である私たちの中にある公を再発見し広げようではないか、そういう議論であったように思います。

大会テーマは、「いきいきとした地域社会の創造を目指して」ということで2日間にわたって議論したところですが、クロージングセッションでは見事にまとめてくれました。しかし、非常によくわかったようで、これを人に説明しようとする、大変難しいことですね。でもこうやって議論の成果を実感できるという点では、すばらしい進め方であったと思います。また、このテーマの意味は、私たちにとりまして、持続可能で豊かな地域社会づくりをどのようにしていくのか。これこそ私たちの暮らしの中から発する小さな公から、それを全体の公へと広げていくという重要な意味があるように思います。そのためにこそ、多様な主体が協働して、それを発展させ、人、物、資金、情報という地域の資源をつなぎ循環させることで、私たちの社会が自立的に自己発展していく、そういう仕組みを考えるいい機会であったと思います。この大会、7年目にして素晴らしいテーマにたどり着いたと思います。

朝の講義では松原さんから、新しい公共を具体的な制度に変えていく、ホットなお話を伺うことができました。そして、この本日6つの分科会、それぞれ見てください。よく考えられたものだな、よく運営されたものだなと、皆さんの力に心から敬意を表したいと思います。

第1分科会は、「多様な主体による協働の明日を考えよう！」ということで、協働は多様なチームの組み合わせによって初めて生まれるものであり、チームをつなぎ合わせて、多様な組み合わせができ、そこから初めて協働が生きていくのだということでした。

第2分科会は、NPO自身ももっと世の中に情報を発信していく必要がある。そこから初めて社会のリアクションが生まれるという点で、信頼と支援を得られるNPOになるための情報発信のあり方について、非常にいい議論をしていただいたと思います。第3分科会の課題は、「資金循環」であり、これは鶴尾さんの基調講演に全体像が描かれておりましたけれども、資金循環はNPOが地域で自立するためにどうしても必要ツールです。しかもよくお話を伺っていると、ツール以上に公共の哲学が入っているように感じました。

第4分科会は、より良い協働事業提案制度について議論されました。さらっと聞いていると、何と云うことはないようにも聞こえますが、少し考えてみてください。10年前に、NPOと行政の協働という概念、普通に聞かれましたでしょうか。NPOが行政と対等な立場で協働することなどあり得ない。そういう概念を使ってはならないという、ある自治体職員もいらっしゃいました。今や、むしろ、よりよい協働事業のあり方、またそれをどのようにうまく提案し合って、磨き上げて、連帯の領域を上げていく、そこまで議論が到達したわけでございます。

加えて、第5、第6分科会では、島根の特徴を活かしたテーマのもと、議論を行いました。第5分科会では、島根県独自の移送サービスを考案した経緯や実体験などの報告もいたしました。また、島根県は言うまでもなく中山間地が非常に多い地域でありまして、第6分科会では、こういった地域の再生を目指して自ら乗り出して考えていく、様々な実践についても報告がありました。

そしておもしろかったのは、第1分科会と第6分科会には私もあまり体験したことのない、「ワールドカフェ」を取り入れられた点です。様々な意見を組み合わせながら、話し合う相手を次々と替え、アイデアを出していくワールドカフェ方式を、2つの分科会で実際に行っていたら、その成果がここに集まっているわけです。そういう点で大変新しい、またチャレンジングなスタイルで議論していただきました。

今回のこの2日間を通じて、自治の様々な現場で活動される自治体職員の方、NPOの方、企業の方、市民の方が議論を深めて、いきいきとした地域社会の創造の実現について一緒に考えるということができたのではないかと思います。私どもにとりましても、良いインプットができ、本当にいい勉強になりました。この成果を私たちだけではなく、みんなに発信して、全国の地域で活動する人々の心の糧となり、また、ノウハウとなって、地域活性化の一助になればと期待するところであります。

NPO法成立 10年余が経過した今、7回目のこの大会を新たな次のステップにして、ちょうど、日本全体が「新しい公共」ということを考え直し始める、それを推し進める様々な制度改革も多方面で議論されており、恐らくゆっくりではありまじょうが進む中で、次のステップに向けて重要なフォーラムができたのではないかと思います。この成果を皆さま方がそれぞれの地域に持ち帰り、発展させていただきたいと思ひます。

さて、島根大会はこれで終了となりますが、来年は奈良市で開催をお引き受けいただきました。開催市にとりまして、県内外から皆さまのような論客をお迎えし、議論をすることは、大変栄誉なことでございます。奈良市は開催に向けてご苦労も大変多いだらうと思ひます。

そういうことで、来年さらに充実したフォーラムになるよう、奈良市の皆さんにエールを送り、私のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

■次期開催地代表あいさつ（奈良市長 仲川げん氏）
ただ今ご紹介いただきました、奈良市長の仲川です。

昨年の山形大会で、ぜひ来年は奈良で開催したいと、手を挙げさせていただいた訳ですが、私はNPOセクターで8年ほど仕事をしてきた事もあり、これからますます行政とNPOの関係性のあり方、根本的な理解もより深めていく必要があると思ひています。

行政では、「NPOとの協働は大事」とは言いながら、どこか高みの見物をしている部分があります。このあたりにもっと、緊張感を持って、しっかりと議論を深めていきたいと考えているところです。

本日は「せんとくん」も来ていますけれども、今年は平城遷都 1,300 年の年にあたりますが、来年は 1,301 年目の奈良で、皆さんを温かくお迎えをしたいと思っております。ぜひ、来年 11 月に奈良にお越し下さいますよう、よろしく願いいたします。